

2020年 イースター礼拝式次第

日本基督教団半田教会
横山良樹牧師

招詞 : イザヤ書 35章 1～2節
荒れ野よ、荒れ地よ、喜び踊れ
砂漠よ、喜び、花を咲かせよ。
花を咲かせ
大いに喜んで、声をあげよ。
砂漠はレバノンの栄光を与えられ
カルメルとシャロンの輝きに飾られる。
人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る。

讃美歌 : 21-211番（あさかぜしずかにふきて）より三番のみ

かがやくとこしえの朝 生命にめさむるとき、
この世のうれいは去りて 仰ぎ見ん、神の御顔

詩篇交読 詩篇 30

主よ、あなたをあがめます。
あなたは敵を喜ばせることなく、
わたしを引き上げてくださいました。
わたしの神、主よ、叫び求めるわたしを
あなたは癒してくださいました。
主よ、あなたはわたしの魂を陰府から引き上げ
墓穴に下ることを免れさせ、
わたしに命を得させてくださいました。

主の慈しみに生きる人々よ
主に賛美の歌をうたい、
聖なる御名を唱え、感謝をささげよ。
ひととき、お怒りになっても
命を得させることを御旨としてくださる。

泣きながら夜を過ごす人にも

喜びの歌とともに朝を迎えさせてくださる。

平穏なときには、申しました。

「わたしはとこしえに揺らぐことがない」と。

主よ、あなたが御旨によって

砦の山に立たせてくださったからです。

しかし、御顔を隠されると

わたしはたちまち恐怖に陥りました。

主よ、わたしはあなたを呼びます。

主に憐みを乞います。

わたしが死んで墓に下ることに

何の益があるでしょう。

塵があなたに感謝をささげ

あなたのまことを告げ知らせるでしょうか。

主よ、耳を傾け、憐れんでください。

主よ、わたしの助けとなってください。

あなたはわたしの嘆きを踊りに変え

粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。

わたしの魂があなたをほめ歌い

沈黙することのないようにしてくださいました。

わたしの神、主よ

とこしえにあなたに感謝をささげます。

祈 禱

すべてのものを創り、歴史を支配される全能の父なる神、2020年の復活日の朝を迎えました。全世界の教会で、今日、あなたの御子の救いの御業が祝われます。いま世界はコロナウィルスの脅威の下にさらされています。毎日、日本でも感染者の数が前日を超える勢いで増えています。ここ愛知県でも、県知事が独自に緊急事態宣言を出し、不要不急の外出自粛を求めています。礼拝は、わたしたちの命の営みに欠くことができません。あなたとのつながりを失えば、わたしたちは自分勝手に生き始めてしまいます。そのような生

き方がどのような結末を迎えるか、恐ろしいことでもあります。今日、わたしたちは様々な仕方であなたを仰いでいます。ここに集うことを許された者、ラインの中継で礼拝に参加している者、インターネットの教会員の頁から、家庭礼拝を守っている者がいます。またそういう環境を整えられない者、この状況下でも仕事のために出かけている者もいます。そうしたすべての者の気持ちを持ち寄って、わたしたちはあなたの御前に出ています。神さま、どうかわたしたちを憐れんでください。この世界をお救いください。いま状況の中で戦っている医療従事者や、政策決定者たちにあなたの顧みと知恵と保護をお与えください。またあなたの御名で呼ばれることを喜びとする者たちにとりなしの働きをさせてください。御言葉に聴くことのない社会には安らぎがありません。わたしたちは、あなたにあって生かされるどのようなものによっても奪われることのない平安があることを知っています。どうか聖霊によって、あなたの民を守り、導いて下さい。あなたの平安のうちに、恐れる者、不安におびえる者をお守りください。とくに高齢の者を顧みて下さい。

わたしたちの力の源は、あなたを喜び祝うことでもあります。これから御言葉に聴きます。御言葉を取り次ぐ者を聖霊で満たしてください。どうか、あなたの通りの良い管として用いられますように。そして、どうかあなたが、説教者を通して、わたしたち一人一人の心に語り掛けて下さり、恐れを拭い去り、平安な思いに満たしてください。わたしたちをひとつに結び合わせ、それぞれの場へ送り出してください。主の復活の喜びをともに分かち合うひと時とされますように！

この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

聖書朗読：マルコによる福音書 13章 18～26節

復活はないと言っているサドカイ派の人々が、イエスのところへ来て尋ねた。「先生、モーセはわたしたちのために書いています。

『ある人の兄が死に、妻を後に残して子がない場合、その弟が兄嫁と結婚して、兄の跡継ぎをもうけねばならない』と。ところで、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎えましたが、跡継ぎを残さないで死にました。次男がその女を妻にしましたが、跡継ぎを残さないで死に、三男も同様でした。こうして、七人とも跡継ぎを残しませんでした。最後にその女も死にました。復活の時、彼ら

が復活すると、その女は誰の妻になるのでしょうか。七人ともその女を妻にしたのです。」

イエスは言われた。「あなたたちは聖書も神の力も知らないから、そんな思い違いをしているのではないか。死者の中から復活するときには、めとることも嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ。死者が復活することについては、モーセの書の『柴』の個所で、神がモーセにどう言われたか、読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。あなたたちは大変な思い違いをしている。」

マルコによる福音書 16 章 1～8 節

安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるのでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石はすでにわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペテロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。かねて言われたとおりに、そこでお目にかかれる』と。」

婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

讚美歌 : 21-326 番「地よ、声高く」(2 番)
罪に打ち勝ち、死をやぶりて
われらの心、解き放つ主

その勝ち歌こそ 全地に満ちて
救われし者 とともに歌う

説教： 「復活問答」

わたしは人を笑わせる話術が得意なほうではありません。たとえば落語ではその日の演目に入る前に「まくら」とよばれる前振りがあって、お客さんをちょっと笑わせて、客席を暖めて、その反応をみて噺に入ってゆきます。真打ちの中には「まくら」で客の様子を見て、その日の演目を変えてしまうような方もいるそうです。礼拝の場合は、不特定多数の方に話すスタイルではありませんから、そういうことはありません。特に自分の仕えている教会では、こうして皆さんの顔の見える範囲で御言葉を取り次ぐわけですから、説教を聴いておられる時の反応から、あ、これは届いたな、とか。滑ったなとか、今日は浮かない顔をしておられるな、ずっと下を向いたままだな、時には、あ、寝てるな、と。ここからだと言った皆さんの様子はよく見えます。そこでここはもっと押した方がいい、とか。ここは省こうという判断をします。わたしは、説教は完全原稿を作っていますが、本当の意味で、説教が完全になるのはこうして皆さんの前でお話しする時、聖霊に執り成されて、皆さんと目に見えない対話をする、そのなかで説教は説教として、つまり神の言葉として届けられるのだと信じております。

さて、今朝はイースターで、本当ならクリスマスと並んで教会員の出席がもっとも多い日ですが、コロナウィルス感染対策の緊急事態宣言の中にあり、社会的距離を保つために会堂に座る人数を制限しています。礼拝も二回に分けて行っています。40日前、2月26日に受難節に入ったときは、まさか、このようなイースター礼拝を迎えることになろうとは夢にも思いませんでした。まさしく世界全体が「受難」のなかにあり、それはコロナウィルス感染症に関して言えばまだ終わってはならず、こういう状況の中で、今日、わたしたちはイースターの朝を迎えたのです。イエス・キリストが墓から復活し、死と罪の支配を打ち破られたという教会の取り次いできた消息は何をわたしたちにもたらすのでしょうか。

復活についてふれたマルコによる福音書のふたつの記事を先ほど読みました。先に、16章の復活の日の朝の三人の女性の出来事を振り返ってみましょう。マグダラの MARIA とヤコブの母 MARIA とサロメの三人がイエスさまの遺体に塗る香料を買って、日が昇ると墓に出かけてゆきます。金曜日の夕方に

十字架から取り下ろされたイエスさまの遺体は丁寧な処置をされることなく、墓に納められました。それをなるべく早く清めて差し上げたい。そういう気持ちだったのでしょうか。しかし、この後に起きたことは彼女たちの予想外の展開であり、度肝を抜かれることになりました。今日は時間がないのでその部分は省きますが、結果的に8節にあるように「婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。」という顛末になりました。新共同訳聖書を開きますと、マルコによる福音書はここで断ち切られたように終わっています。このあとは、「結び一」となっていて、9節からはカッコつきの展開になっています。これは重要ではあるが後代の加筆と見られている個所を示す記号で、最後に「結び二」があって、そこには「婦人たちは命じられたことをすべてペテロと仲間たちに手短かに伝えた～」とあるのです。こうすると他の福音書との整合性もある程度とれるのですが、オリジナルでは、つまり、初めて、主の復活を告げ知らせられた三人の女性は「逃げ去り」「震え上がり」「正気を失い」「何も言わなかった」。それは「恐ろしかったから」です。これが復活という神の御業に立ち会わされた者たちの、つまり、はからずも当事者とされた者たちの反応でした。いまのわたしたちが毎年、「イースターおめでとう！」「主の復活、ハレルヤ！」というのとはまったく違います。石のように黙ってしまった。「正気を失う」と訳された言葉は「エクスタシー」の語源となった「エクスタシス」というギリシア語ですが、「心を外に置く」「我を忘れる」「夢うつつとなる」、「恐れ驚く」と訳されます。つまり、魂を消し飛ばす、という意味の「魂消る」と同じです。すると体がフリーズしてしまう。

動けないから誰にも言えない。マルコは正直に、大切なことを記録しました。この恐れに満ちた状態から、彼女たちがどのように回復したかをマルコは記していません。しかし、今日、キリスト教人口は22億人といわれ、このようにエルサレムから遠く離れた日本でも主の復活が祝われているのですから、最初の復活の証人となった婦人たちが、この白い衣を着た神の使いの伝言をどのような形でか、伝えたことは結果からみて間違いありません。そして、そこにはわたしたちの側からではない神さまからの絶えることのない働きかけがあったのです。彼女たちも、そして弟子たちも、福音書の記事を読めば、当事者とされた人々は最初、誰一人として主の復活の出来事を受け止めることは出来ませんでした。つながらないのです。彼らが見聞きし、生きている現実と。だから復活とは、新しい創造の出来事であり、繰り返し、神さまの

側からの働きかけによって、聖霊によって、わたしたちに信仰が与えられ、恐れが喜びへと変えられていく出来事なのです。わたしたちが、福音書記者マルコから教えられる真理は、復活は、決して人間の推し量れるような出来事ではなかったという事実です。今日はもう一か所、サドカイ派とイエスさまの復活に関する問答も読みましたが、人間の側から神さまの出来事を思い計るとこんな頓珍漢なことになるという、これは良い例です。サドカイ派は復活などないと考えていましたから、復活を信じる人たちに、ならばこういう場合はどう答えるのかというシュミレーションを考案しました。もちろん彼らは真剣です。長い時間をかけてこういう議論を積み重ねてきた。この7人の夫をもった妻は復活したら誰の妻になるのかという議論は思考の遊びですね。ですから、イエスさまは「あなたたちは大変な思い違いをしている」と繰り返されました。聖書も、神の力も知らないから、そんなおかしいことをしているのだ、と。そして、神は「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」とご自身を紹介され、人間とともに歴史を歩まれる神であることを示されたのではないかと語り、「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ」と宣言されました。そうなのです。主なる神は、「マグダラのマリアの神であり、ヤコブの母マリアの神であり、サロメの神」であられた。「あなたの神」と、呼ばせてくださる方なのです。彼女たちに落ち着きを与えたのは、この生きて働く神ご自身です。そして神は御言葉においてご自身を表されるのです。彼女たちにも、弟子たちにも、主イエスの約束の言葉が十字架に先立って与えられていました。これが彼らに恐れに満ちた状態から立ち上がる力となっていったのです。

現在、わたしたちはコロナウィルスの脅威の下にあります。誰もが、病と死の支配に脅かされていると言ってよいでしょう。皆が当事者で、不安の中にあります。しかし「わたしたちの助けは天地を創られた主の御名にあります」。神が、キリスト・イエスを死から復活させられたという消息は、この状況下で、わたしたちのあらゆるシュミレーションや、議論を越えて、神さまご自身が、わたしたちの背後におられて働いておられる生ける神であることを指し示します。ここに平安と落ち着きのための土台が確かに据えられているのです。この消息により頼んで、神の民は生かされるのです。主の復活、ハレルヤ！

お祈りいたします。

神さま、感謝をいたします。あなたは今、聴くべき御言葉としてわたしたちに御子イエスの復活の消息を与えてくださいました。このような状況のもとになれば、復活の消息を、わたしたちはサドカイ派の人々のように、自分たちとは程遠い、観念や、思考の遊びのように捉えていたかもしれません。しかし、このような時だからこそ、あなたが、わたしどものために、生きて、働いておられる神であること、あなたがわたしたちを決して見捨てず、恐れにうずくまる者たちにも働きかけて下さるお方であることを感謝と喜びをもって受け止めることが出来ます。あなたの御名を崇めます。どうかわたしたちをあなたの御言葉によって守ってください。復活という人知を超えた恵みをお与えくださるという約束に立つことで不安と恐れから解き放ってください。

わたしたちのために十字架にかかり、陰府に下り、よみがえって天に昇られ、いまもわたしたちを執り成しておられる主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

讚美歌 21-333

「主の復活、ハレルヤ」(1番)

主の復活、ハレルヤ、ほめうたえ、ハレルヤ
墓も死も憂いも 打ち破るイエスよ
死のとげさえ滅ぼし、人の罪をあがなう、
主の復活、ハレルヤ、歌声は、ハレルヤ

献 金

報 告

添付の週報をご覧ください

祈 禱

主をほめたたえましょう。祈りの課題としては、教会のため、信仰の友のため、コロナに呻吟する世界のために、医療従事者のために、ともに礼拝をささげる日を！

主の祈り

天にまします我らの父よ
ねがわくば御名をあがめさせたまえ

御国を来たせたまえ
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく
我らの罪をも ゆるしたまえ
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、
父なる神の愛と
聖霊との親しき御交わりが
主の復活の証人として、この地より遣わされる
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！